

図書館だより

埼玉県立図書館

30号



(秩父市観光課提供)

秩父夜祭

山やまが錦織のよそおいを北風に
舞いあげるころになると、どこから
ともなく夜祭の屋台囃子が伝わって
くる。太鼓の轟き、笛の音は風がは
こんでくるのか、空耳か、それとも
おのれの胸の鼓動か。山間秩父の人
々は、そんなとき夜祭と自分が共
存していることを感じる。

祭りのクライマックスは十二月三
日の夜。屋台と笠鉦六台が秩父神社
に集結し、お旅所にむかう神幸行列
を先導する。盆地は屋台囃子の大交
響楽につつまれ、夜空には冬の火花
が咲きみだれる。

山の神をまつるといふ古くて素朴
な信仰を中核にした夜祭は、近世に
いたって華やかな屋台・笠鉦を創造
し、大観衆を動員する基礎をつく
った。

ゆたかな野生味と洗練された祭り
文化を融合させた夜祭の魅力は、す
でに日本の祭りを代表するひとつに
なった。今年も八百万の神がみ（大
観衆）が結集することだろう。

(千嶋)

限定本の魅力

小林 鶴 男

私が限定本に興味をもつようになった動機は、戦前、葉に神秘的な変化がある純日本植物、おもと（萬年青）を趣味で培養、正確な培養の歴史のわかる文献を探すため、東京の古書展へ足を運んだことからである。ある日、会場で陳列ケースの中に美しい一冊の本があった。

近づいて手にとって見ると、鈴木三重吉著、函入特製極美本の「櫛」で、表紙カンバス地に津田青楓筆、油絵肉筆装幀、森田草平著「煤煙」と共に装幀では画期的なもの、限定二〇部、大正二年春陽堂より刊行されたものである。

しばらくながめていたが当日購入にたのお金を持参していなかったの、出品書店名をメモして帰宅、早速手紙で照会したが売れてしまったとの返事であった。

また不愉快のこともあった。それはある限定本刊行会から刊行案内をいただき、現金書留で送金したのに何年たっても刊行しないで、返金もしてくれないという刊行会もあった。しかし、長い間、心がけていた珍

しい限定本が入手出来たときのよろこびは格別である。

一例をあげると

谷崎 潤一郎著 春琴抄 赤表紙
本文用紙別渡和紙、表紙朱漆塗り、表紙題名金色自筆、限定五〇部、創元社刊

昭和8 創元社刊

銅木 清方著 御藻端、表紙
薄茶色の手織絹布製、本文用紙厚手
和紙、九枚の挿絵手彩色入、限定一
四七部 和紙装函入、外函付

昭和13 双雅房刊

井上 和雄著 宝 船 考

本文用紙土佐紙、見返著者肉筆原稿
表紙鳥の子紙、堂本印象筆、宝船本
版手摺装、天金署名入
限定一〇〇部 昭和11 昭森社刊

式場 隆三郎著

ローレック（生涯と芸術）

芹沢鉦介装幀、署名函入、表紙は本
麻布手染、扉は手刷手彩色入、本文
用紙手漉上質和紙、限定一八〇部

昭和17 二見書房刊

戦後は、東京上板橋の造本芸術家
青園莊内藤政勝氏と知り合い、限定
本収集に一層拍車をかけたのである。

内藤氏は、昭和三十九年朝霞町溝
沼（現朝霞市）へ転居、夏にはつき
のような猛暑お見舞いをいただいた。
毎日毎日の日照りでこの処少々グ

ロッキーの状態ですが先生には如何
お過しでしょうか、猛暑お見舞い申
し上げます。

小河内の池がすっかり乾上って、

東京では明日の水にも心配だと言う
のに、一方で降り過ぎた雨で山崩
れだ浸水だと大騒ぎする地方も同じ
になります。こんな時には心あた
まる……と言っても何もために
なる書物とは限りません……
本でも眺めて暮したいものです。そ
んな書物を造りたい……と念願で
青園莊はこの暑さをがんばっていま
す。

よろしくお支援下さいます様に……

昭和三十九年 盛夏
以上のお葉書を拝見しても、限定
本造りに寸暇を惜んでとりくんでお
られた様子がよくわかります。

稀代の造本芸術家、内藤氏が五十
七年十二月二十六日、満七十五才で
天寿を全うするまで、四十余年間に
改装本を含め一三〇種、約一万冊も
造本され、これ等はすべて創意に富
む貴重な限定本ばかりで、芸術のす
ばらしさに驚嘆せずにはいられない。
青園莊限定本のおもなものを

雨月物語 関野 準一郎著

限定五〇部 昭和19

古事記絵巻 関野 準一郎著

限定二二〇部 昭和24

ヴェニエヌ生誕 堀口大学著

限定二〇〇部 昭和28

キリシタン河童 火野葦平著

限定二〇〇部 昭和35

書物の美 斎藤昌三著

限定一五〇部 昭和37

牡丹の寺 田中冬二著

限定一〇〇部 昭和39

天才の祭 若山八十氏著

限定一五〇部 昭和40

また最近では、東京文京区本駒込
の成瀬書房で、すばらしい全冊著者
の毛筆署名、落款、限定番号入の限
定本を刊行している。

代表的なものは

森 敦著 限定二〇〇部 昭和59

昭和九年、二十二才で毎日新聞に

連載した処女作。完結後、放浪の旅

に出、六十一才で「月山」を発表し

た森 敦氏の深遠な思想の原点はこ

の作品にあると言われている。

今までの出版社からの刊行も断

わりつづけてきた幻の名作。

小川 国夫著 青い落葉

限定一一三部 昭和60

衆道（一九八一年文芸十一月号発
表、船底（一九八四年文芸十一月号

発表、青い落葉（一九八五年文芸四
月号発表）の三篇収録。

時流に妥協せず、簡潔に彫琢され
た文体で自己の文字を追求しつづける
特異な作家といわれている著者の
最新作。

生方たつ美著 花のこゑ、雪の花

限定一一三部 昭和61

肉筆揮毫短歌入り、著者の全歌集
より珠玉の名歌百首を選定、二冊の
和紙に収録したもの。

つぎに蔵市の蔵書家で有名な元
清流編集長、安田辰馬氏は清流第四
十八号、中秋夜話で、ある限定本と
題して、駒井清次郎著「日本の限定
本」の収集苦心談をつぎのように書
いている。

……ついに意を決して、一面識
もない大阪の駒井清次郎先生に直接
お伺いの書状を出した、この非礼
にも拘らず、駒井先生は早速御懇切
なる返事を下さった。その要旨は、
残念乍ら手許にもすでに一部もなく
貴需に應じ難い。先日、東京神田の
ある古書店に一部出たが、これは静
岡の某氏の手に移ってしまったとい
うことであつた。これで又万事休す
とあきらめると共に、この種の稀こ
う書の行先についての専門家間の情
報の密なること、一驚せざるを得な

かった。

ところがである。話はいよいよこ
れからが本番である。忘れることな
く日時を過ぎていた、たしか昭和三十
一年の三月末のことである。思い
がけなくも、大阪の駒井先生から一
通の親書をいただいた。……

かくして、待望の高著「日本の限

定本」、特装番外著者家蔵本一部を四
月十日付の玉章と共に、親しくわら
びの里のわが美しい書屋に郵送いた
だいたのは、忘れもしない昭和三十
一年四月十八日のことである。

小包便の中味を損じないよう細心
の心配りで丹精に荷造りされた包装
を解き、始めて手にしたこの特装限
定本には、わが希いをいれられ、
この本は、和紙刷本十部のうち一
部なる極稀本に付、特に愛蔵を希ふ
もの也

昭和参拾叁年四月拾日

著 者 関

と、親しく直筆で書き記されている。
一冊の数少ない限定本を入手するこ
とは大変の努力であり、また楽しみ
である。

私は、これからも、読んで気分転
換出来る美しい良心的な限定本と離
れることは出来ないと思う。
（書誌研究家 岡部町在住）

県内図書館めぐり

羽生市立図書館

田舎教師の里に

独立館オープン

「田舎教師」（田山花袋作）の羽生
にも、明治の実業家清水卯三郎・書
家三村秀竹、詩人宮沢章二、去年の
芥川賞候補作家石和 鷹など、新旧
の文化関係者輩出を背景に、八月一
日、新館がオープンした。今まで、
いくつかの施設の間借りぐらしであ
ったが、館独立によって、市民の関
心もふかまり、二か月間で、去年の
登録者数を上まわり、貸出し冊数も
六割強となっている。

なお当館は、郷土資料館を併設し
隣接の産業文化ホールとともに、緑
の文化地帯として、郷土の文化向上
に、大いに役立つことが期待されて
いる。

概要

1、敷地面積 一四、六七六㎡（駐車
場四、二五三㎡を含む）



※所在地 羽生市大字下羽生9 4 8
TEL 0485 (61) 8233

- 2、鉄筋コンクリート造り一部二階
建
- 3、床面積一F 二、二六七㎡
二F 四〇三㎡
- 4、一F 一般開架室、参考調査室
児童室、対面朗読室、田
舎教師コーナー、展示室
館外用書庫・車庫等
- 二F 学習室、会議室、視聴覚
室
- 5、別棟 郷土資料館、収蔵庫
蔵書計画
一般三万冊、児童二万冊、参考
一万冊、積層書庫五万冊、館外
用二万冊、雑誌百誌、新聞十二
紙

文学散歩

<3> 八高線に沿って

- 小川
- 仙覚律師顕彰碑(表) (陣屋台)
 - 佐々木信綱歌碑(陰) 新聖の道をひらきし
功とはに麻師半の郷の名はとこしへに
 - 土屋文明歌集「山谷集」
「万葉紀行」
 - 田中冬二「山鳴」の詩
紙を漉く水の音に 寒む寒むと日が暮れる

- 越生
- 田山花袋紀行文「秩父の山裾」
 - 川村碩布句碑
世の中を降たいらげて雪白し (上野)
 - 角川源義句碑
道灌の地のもてなしや川焚火
(山吹の里)
 - 角川照子句碑
梅の坂のぼれば雲に在る如し (同)
 - 斎藤俳小星句碑
松籟や幽けくちかく春の蟬 (同)
 - 佐々木信綱歌碑
入間川高麗川こえて都より来しか
ひありき梅園の里 (梅林)
昭和39年建立の1基、昭和58年建立の1基がある

- 日高
- 坂口安吾「高麗神社の祭の笛」(高麗神社)
 - 釈迦空歌碑 やまかげに獅子ふえおこるしし笛は高麗のむかしを思へとぞひま (同)
 - 野田宇太郎詩碑 家系図の詩 (同)
 - 加倉井秋を句碑 引獅子や昏れをうながす笛と風 (同)
 - 高浜虚子句碑 山寺は新義真言ほととぎす (聖天院)

- 名栗
- 若山牧水歌集「溪谷集」「くろ土」
紀行文「溪より溪へ」
 - 河井醉茗 紀行文「妻坂越」

- 飯能
- 蔵原伸二郎 旧居(河原町) 詩碑 (天覧山入口)
 - 三島由起夫小説「美しい星」
 - 千家元磨 旧居 (南川)
 - 若山牧水歌碑 しらじらと流れて遠き杉山の峽のあさ瀬に河鹿鳴くなり (文化会館前)
 - 若山牧水歌集「溪谷集」「くろ土」
 - 水原秋桜子句碑 むさし野の空真青なる落葉かな (観音寺)
 - 石田波郷句碑 万緑を顧るべし山毛櫨峠 (ぶな峠)
 - 松原地蔵尊句碑 竹寺の竹の時雨に会ひ申す (竹寺)
 - 秋元不死男句碑 今年竹溪流ひびきやすきかな (同)

- 毛呂山
- 武者小路実篤 新しき村 (葛貫)
 - 武者小路実篤詩碑
心愛に満つる時 抱咲く 天を讃美す 喜びの使 来たらずと言う事なし (新しき村入口)
 - 川村碩布生家・墓・句碑
初花の水をわけて咲にけり (妙玄寺)
 - 川村碩布句碑
色かへぬかはりやまつに秋の声 (長瀬)

※この地域に関わっているすべてを記載しておりませんので詳しくは、各県立図書館所蔵の郷土の文学資料をご覧ください。

(関田史郎 作成)

埼玉県立図書館の年末・年始の休館日
12月27日(土)～1月5日(月)

催し物

県立浦和図書館

埼玉県立報映画会

日時 12月6日(土) 14時

「利根川」ふるさと埼玉

日時 12月25日(木) 14時

「科学文化映画会」

日時 12月25日(木) 14時

「初春を活ける」他

日時 2月12日(木) 14時

「中華人民共和国の工業」他

日時 3月11日(木) 14時

「ループル美術館」

日時 1月24日(土) 14時

「郷土を知る映画会」

日時 2月21日(土) 14時

「秩父事件―絹と民権―」他

日時 3月27日(金) 14時

「城跡にたつ―鉢形城―」他

日時 3月28日(土) 14時

「伝説文化記録映画会」

日時 1月13日(木) 14時

「横瀬の人形芝居」他

県立熊谷図書館

名作映画鑑賞会

日時 12月6日(土) 9時・13時

「飢餓海峡」

日時 2月7日(土) 10時・14時

「白い巨塔」

日時 3月7日(土) 10時・14時

「大いなる幻影」

日時 12月24日(木) 14時

「クリスマス子供会」

日時 12月25日(木) 14時

「冬休み子供ビデオ映画会」

日時 12月26日(金) 14時

「不思議の国のアリス」

日時 12月26日(金) 14時

「アニメフェスティバルⅡ」

日時 1月6日(土) 10時・14時

「子供映画会」

日時 12月19日(金) 15時

「定例映画会」

日時 1月16日(金) 15時

「吉田玉男」日本の太鼓」

日時 12月20日(土) 14時

「ビデオコンサート」

日時 1月24日(土) 14時

「吉田拓郎 つま恋85」

「本田美奈子 イン武道館」

県立川越図書館

子ども映画会

日時 12月6日(土) 14時

「十五少年漂流記」

日時 1月8日(木) 14時

「青い鳥」他

日時 12月19日(金) 10時・14時

「映画の集い」

日時 2月13日(金) 10時・14時

「チャップリンの舞台裏」他

日時 2月26日(木) 10時・14時

「昆虫たちの生きる闘い」他

日時 2月26日(木) 10時・14時

「脳を語る」老化」他

日時 1月24日(土) 14時

「名作映画会」

日時 1月24日(土) 14時

「終電車」

日時 2月19日(木) 10時・14時

「郷土を知る映画会」

日時 2月19日(木) 10時・14時

「武州藍」ふれあいの道」

日時 3月26日(土) 10時・14時

「春休み子ども映画会」

日時 3月26日(土) 10時・14時

「ムーミン」総集編」

日時 1月23日(金) 13時半・15時半

「児童文化講演会」

日時 1月23日(金) 13時半・15時半

「講師 松居 友氏」

「演題 絵本と出会う」

日時 12月20日(土) 10時・13時・15時

「県立久喜図書館」

日時 12月20日(土) 10時・13時・15時

「名画鑑賞会」

全ての催し物は無料です。
会場の記入がない場合、いずれも主催館(印)が会場です。詳細は県立各館へおたずねください。

- 日時 1月24日(土) 10時・13時半
- 「道」
- 日時 2月21日(土) 10時・13時半
- 「子どもたちへ」
- 日時 1月22日(木) 13時半
- 「いじめ」ほか
- 日時 1月22日(木) 13時半
- 「子どもたちへ」
- 日時 1月28日(木) 13時半
- 「宇宙PARTIⅡ」他
- 日時 2月19日(木) 13時半
- 「昆虫たちの生きる闘い」他
- 日時 2月26日(木) 13時半
- 「核戦争後の地球1・2」
- 日時 12月11日(木) 13時半
- 「レコード・CD & スライド」
- 日時 12月11日(木) 13時半
- 「レコード「埼玉の民俗音楽」」
- 日時 1月14日(木) 13時半
- 「スライド「肉筆浮世絵」」他
- 日時 2月12日(木) 13時半
- 「レコード「六段(箏曲)」」
- 日時 2月12日(木) 13時半
- 「CD「ドイツ・パロックのフルート音楽」」
- 日時 2月12日(木) 13時半
- 「スライド「浮世絵版画」」他

第八回 本を読む県民のつどい

読書の秋にふさわしい行事として
定着した「本を読む県民のつどい」
も今年で第八回をむかえました。

「つどい」は十一月五日、あいにくの小雨にもかかわらず埼玉県川越福祉センターに五百名の参加を得て盛大に開催されました。

主催者側のあいさつ、来賓祝辞の後、読書グループ・文庫十六団体の表彰及び読書推進運動協議会からの優良読書グループ表彰の伝達が行われました。続いて表彰を受けた団体のなかから小川町の「大河連合読書

会」と大井町の「つつじ地域文庫」による事例発表が行われました。

記念講演の講師には上坂冬子氏を迎え「人生のドラマ——私の取材ノートから——」の演題のもと、予定時間を超過して熱のこもった講演が行われました。



表彰された読書グループ及び文庫

- ・読書グループ
けやき読書会(川口市) きさらぎ読書会(与野市) あおぞら読書会(桶川市) 読書グループたんぼ(鶴ヶ島町) 大河連合読書会(小川町) 紫苑読書会(皆野町) けやき読書会(本庄市) みちしほ読書会(熊谷市) たまゆら読書会(深谷市) さきたま読書会(行田市) 木揺会(幸手市)
- ・文庫
わらべ子ども文庫(志木市) 高根文庫(日高町) つつじ地域文庫(大井町) 南団地子ども図書館(越谷市) ひまわり文庫(杉戸町)

おたすねくたさい

問 「日本」の発音は「ニッポン」か「ニホン」か。
答 結論から言えば、今のところどちらに発音してもよい。

国号としての「日本」の読み方を国家的に定めたことはない。昭和9年に臨時国語調査会で国号呼称統一案を審議し、「ニッポン」とすることを決議したが、政府で採択するには至らなかった。その後、戦前の帝国議会や戦後の国会で何回か問題になったが、その度に政府側の答弁は、にわかにどちらかに決めること

は困難である、という点で一貫している。(資料②参照)
日本放送協会の放送用語検討委員会では、昭和9年国号としては「ニッポン」を第一、「ニホン」を第二の読み方にすることを暫定的に決め、26年に、正式の国号として使う場合は「ニッポン」、その他の場合には「ニホン」と言ってもよいという決定をしている。また、教科書では散文では原則的に「ニッポン」とし、韻文では音律の関係で両方を自由に使い分けている。

※県立図書館特別休館日のお知らせ

春季特別整理のため、下記の期間休館となります。

浦 和	熊 谷	川 越	久 喜
2月23日(月)～3月4日(水)		3月9日(月)～3月18日(水)	
移動奉仕・視聴覚業務は平常どおり行います。		移動奉仕・視聴覚業務・障害奉仕は平常どおり行います。	
0488 29-2821	0485 23-6291	0492 44-5602	0480 21-2659

編集後記

今年も残すところ一ヶ月となりました。この一年を振り返ってみると国内、国外とも明・暗いろいろな出来事がありました。二十世紀にむけて平和で明るい年にしたいものと思います。

皆様方には良い新年を迎えることを心から祈念いたします。

(訂正)
前号(二十九号)の二ページ目「私のコレクション」の文中、四段目右から二十一行目の「変えらされて」は「変えさせられて」の誤りにつきお詫びして訂正いたします。